

佐賀空港へのオスプレイ配備・軍事空港化とは？

パネル案 9/3

話は佐賀空港建設前の1990年に遡ります。建設の条件として、県は空港を軍事利用しないことを漁民と約束しました。県は空港予定地周辺の8漁協と公害防止協定を締結、その覚書付属資料に「県は佐賀空港を自衛隊と共用するような考えを持っていない」と明記されました。

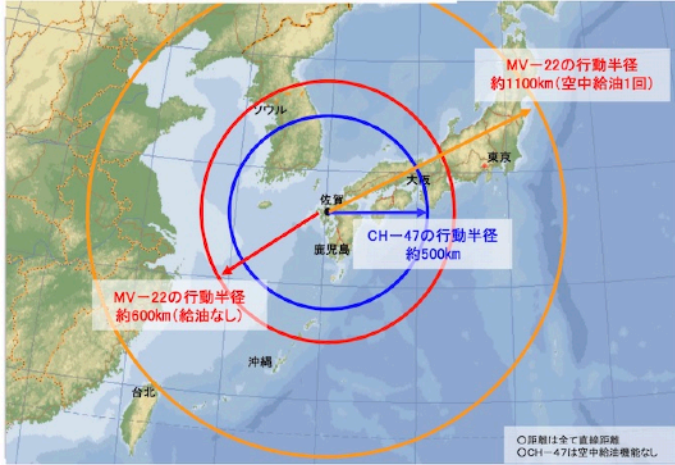
ところが佐賀県の山口知事はこの約束を破り、国2018年8月に自衛隊基地受け入れを表明しました。さ

らに4年後の昨年11月に、8漁協の後継組織の有明海漁協がこの協定を「見直し」、今年5月に「多数決」で土地の売却を決めました。

少なくない地権者が「土地は売っていない」として、先月、この決定の有効性を争う裁判を起こしました。もちろん佐賀空港の軍事基地化は、地権者や地元漁民・住民だけの問題ではなく、全国民の問題です。

中国大陸に及ぶ行動半径、これで「専守防衛」？

■ MV-22オスプレイと陸自CH-47JAの行動半径



オスプレイは空中給油で行動半径は1,100キロに及び、周辺国にとって脅威となる。(防衛省資料より。下の図も。)

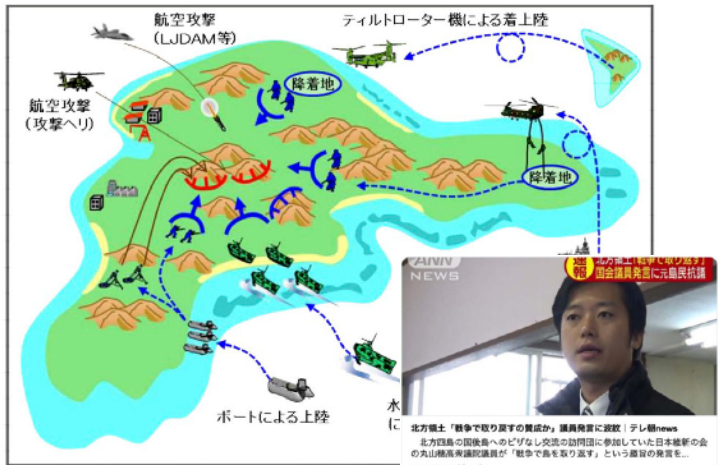
佐世保のアメリカ第7艦隊とも連携か？

■ 佐賀空港と関連施設の位置関係



文字どおり「戦争で島を奪い返す」作戦に使われるオスプレイ (防衛省資料より)

島嶼防衛のイメージ



維新・丸山議員の「戦争で島を取り返す」発言は「炎上」したが・・・ (右は2019年5月11日のテレビ画像)

予定地は大川市、柳川市中心部から約10キロと至近距離



起ち上がる住民、市民

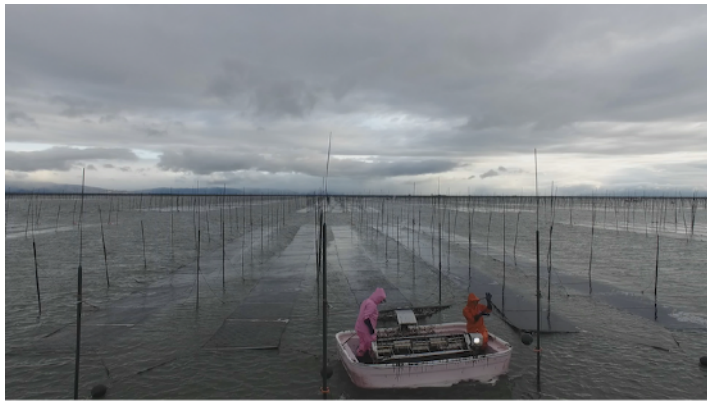


工事開始2日目の6月13日、関係車両の侵入を住民・市民が約1時間にわたって阻止した。警察の「道交法違反」の警告に、市民は「憲法違反」「違法行為防止のための正当行為」と反論。



防衛省、反対する地権者には土地代も支払わないまま工事開始・土砂搬入を強行。住民の会会長の古賀初次さん[写真右]はダンプの前に立ちをはだかる。6月19日。

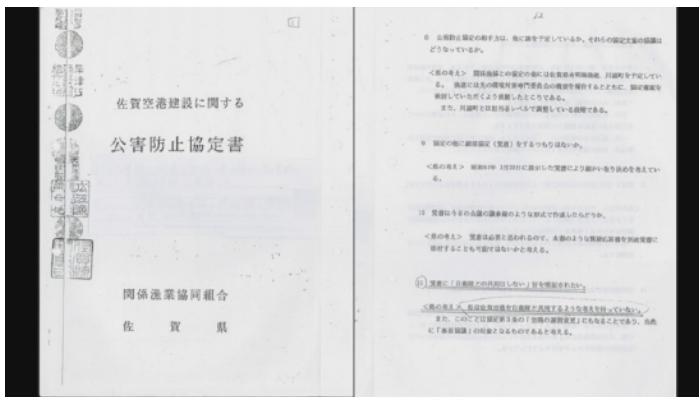
戦争の準備ではなく、宝の海を守ろう



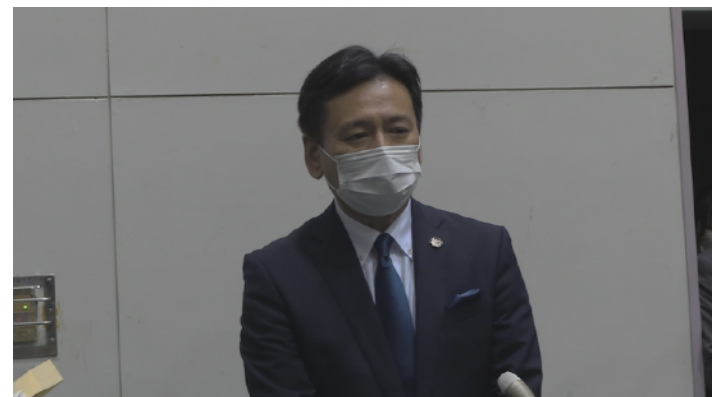
有明海海苔摘み作業、2019年1月。極寒の有明海、海上での海苔摘み。日本一の有明海海苔を支える漁師たち。



沖縄で辺野古基地反対運動に加わる女性が駐屯地予定地を訪問。古賀さんから新ノリをプレゼントされる。「いただいた海苔は、[連帯の]思いも込められているんだと思う。簡単に、基地だとか軍隊だとか、お金のために、この海を殺しちゃダメだと思います。一緒に頑張ってくださいと思います。」



佐賀空港建設に関して、佐賀県と関係有明海漁協の間で締結した公害防止協定。1990年3月30日付。「協定覚え書き」には「県は佐賀空港を自衛隊と共用するような考えを持っていない」と明記されている。

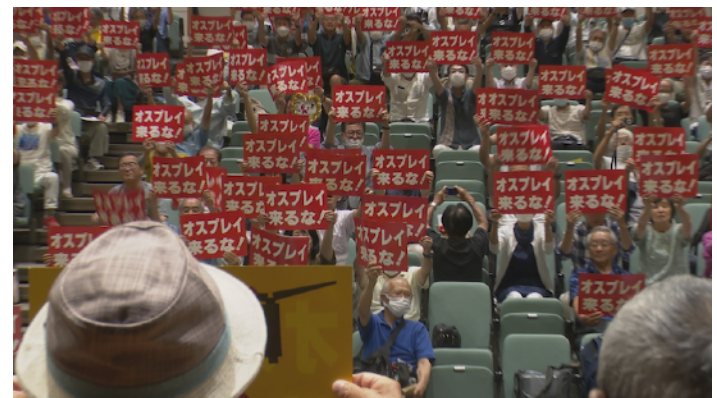


よしのり
2018年8月、山口祥義佐賀県知事、協定覚え書きを反古に。写真は2022年12月20日佐賀市諸富町での県民説明会で。



防衛省、反対する地権者には土地代も支払わないまま工事開始を強行。砂煙を上げて建設予定地に侵入するダンプカー。6月19日。

(5番目以降の写真は田中正照さん提供)



7月29日、複数の地権者が、その土地所有権に基づき、国を被告として自衛隊基地の建設差止めを求める裁判を決意。支援し、とともにたたかう「市民の会」が7月29日に設立された。佐賀市のメートプラザに県内外から市民約400名が集まった。8月29日に佐賀地裁に提訴された。

関連サイト、動画
オスプレイ反対住民の会
<https://sagaosprey.wixsite.com/mutsugoro>



はっちゃんのオスプレイ反対日記◎
(古賀初次さんの活動を描いた14分の動画)
<https://youtu.be/crNl5FgWXQ>



冒頭の3枚の防衛省資料の引用元
「陸上自衛隊ティルト・ローター機等の佐賀空港への配備について」2014年9月



「裁判支援市民の会」入会フォーム

